

# きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成27年 学校教育だより

December **12** 第327号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会  
発行・埼玉県富士見市教育委員会  
電話・049-251-2711 (内線622)



大きないもがとれたよ! ~2年生 学校ファームにて~

写真提供/みずほ台小学校

「私に妹がいたら」

関沢小学校五年

前田 知美

私は妹がほしい  
もし妹がいたら  
ひざの上で寝かせてあげる  
こわい夢を見たら  
一緒に寝てあげる  
だっこしてあげる  
それはすべて  
なっちゃんがやって  
くれたこと  
なっちゃんはお姉ちゃん  
うれしかったから  
お姉さんになったら  
やってあげたい

事実から結論を導き出す

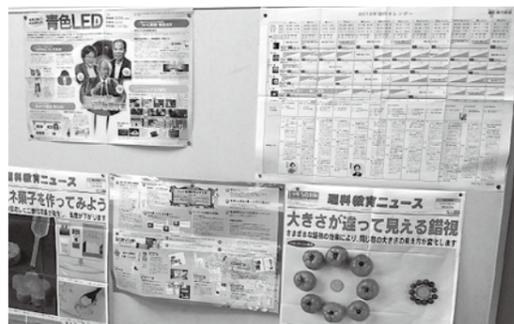
近年、「理科離れ」ということが言われています。「理科離れ」とは、理科に対する興味・関心が低くなったり、理解力が低くなったり、科学的な思考力を持たない人々が増えていると言われる一連の議論のことです。科学的な思考力とは、ある事に対して疑問をもち、それに対する予測を立て、その検証方法を考え出すまでの一連の思考力であると私は考えています。ここ数年、学級担任をしながら、他の学級の理科の授業にもかかわる機会が多くあります。その中で考えることは、「理科が好き」というのはどういふことか、ということでした。「理科が好き」という児童は多いのですが、「実験をすることが好き」なだけで、本当に理科が好きというわけではない児童も多いように感じます。本当に理科が好きというのは、新たな発見や確かめてみたいと思う意欲、不思議だなと思いを巡らせる思考が好きなのであり、実験はそれらを引き出すための支援の一つではないのだろうかと考えながら、日々実践を行っています。

育てる理科教育

ふじみ野小学校 教諭 大館 良明

児童に科学の種をまく

普段の生活の中にも疑問に思ったり、予想をしたりする場面は見られます。しかし、特に何も考えずに、そのままにしてしまう児童も多くいます。まずは、児童の中に、教員が科学の種をまいてあげることが大切です。たとえば、理科室内の掲示物や廊下の掲示物ひとつとっても小さな種になります。月に一度、週に一度と新しいポスターを貼ったり、科学雑誌を置いてみたり、はじめの一步は些細なことからはじめます。低・中学年などでは教



室に科学玩具を置いておくこともできます。

東中学校 3年 新井 瑠華



10月28日、キラリ☆ふじみで第40回合唱祭が行われました。この日のために、どのクラスも多くの時間を費やし合唱練習を行ってきました。クラス全員で協力してきた結果、当日にはみんなで作りあげてきたきれいな

最後の合唱祭

ハーモニーをホールいっぱいに響かせることができました。この合唱祭は、3年生にとって最後の合唱をする場となったのではないのでしょうか。各クラスともに練習では上手いかなかったところが多くありましたが、当日には、今までで一番の合唱を披露することができました。合唱祭を成功に終わらせることができ、嬉しく思います。



わかる授業 = 小学校 理科 =

科学的な思考を

がそれぞれに「科学的な思考」を始めます。高学年にもなれば、予想の根拠を話し合わせれば大いに盛り上がることもあります。ただ単に「実験がしたい」ではなく、「確かめてみたい」と思わせるようにすることが大切です。

流れの中で大事にしたいこと

生活経験の差が予想を立てるときに差につながる場合があります。小さいころから様々な物事によく触れている児童もいれば、授業で初めて見て触るといふ児童もいます。

このようなどときはすり合わせをする必要があります。直接的な経験がなくても、それに似た経験を教員が声かけすることで予想は十分に立てられます。また、個人で予想を立てた後にペアやグループで予想を発表し合い、さらに全体でも話し合うことで「予想の立て方」がわかってきます。結果と考察を分けることも大切になっています。いわば、「事実や数値」と「その事実や数値から考えられること」です。児童はここを混同してしまうことが多いので、しつ



かりと分けて考えさせることで科学的な思考につながっていきます。

終わりに

科学的な思考力は、理科以外の学習、さらには普段の生活にもおおいに活用することができます。普段の生活の場面でも、「これをしたら次に何が起きるのか」という思考が育ってきます。そして、「失敗したら、次にどうすれば成功するのか」という行動につながっていきます。本当に理科が好きで児童を育て、科学的な思考力がつくよう、これからも取り組みを深めていきたいと思えます。

指導・講評 ふじみ野小学校校長 山下道夫

特別支援教育

みとせの月日

西中学校 特別支援学級担任 柴崎 美架

西中に特別支援学級「みとせ学級」が設置されて三年目となる。その担任をしている中で常に感じていることは「大切にされている」ということである。それは、甘やかされるのとは違い、学校生活というミニ社会の中で職員・生徒みんなで指導・支援が行われている状況から感じるのである。みとせ学級の生徒は、朝読

ふと、今、目の前にしている生徒たちは「五年後、十年後……どのような表情で生活をしているか」ということを考える。それは、楽しみでもあり正直、不安もある。大きな目標である、自分で収入を得て自分で生活をしていく「自立」に向けた指導・支援の重要性も強く感じている。「みとせ」とは、「三年の月日」という意味。短い時間だが、この温かい環境で、将来のきらきら輝く表情のために、今日も未来につながる学習や経験を積み重ねさせていきたい。

科学的な思考ができてくると、教科書を飛び出して新たな疑問がわいてきます。「食塩が溶け残ってしまうほどの食塩水にミョウバンを入れたら、まだ溶けるのか」「ミョウバンは教科書には七〇度ぐらいまでのグラフが書かれているが一〇〇度ではどのくらい溶けるようになるのか」など、こういった疑問は危険でない限りクラスに広げたり、可能な限り実際に実験をしたりすることで児童の意欲が満たされていきます。

本校では、高学年で一部教科担任制をとっています。それは、教師の専門性を生かし、児童の主體的な学びを促すことにより、一人一人に確かな学力を定着させるためです。大館教諭は、本校に赴任して以来、高学年の担任、理科主任として「科学的な思考を育てる教育」を推進しています。日ごろの児童への科学の種まき、意欲を引き出す授業実践の積み重ねにより、本校の理科教育は着実に充実・発展することを期待します。

### 子育てⅡ親(自分)育て

水谷小学校 保護者 新井 雄二

どうしたらよいお父さんになるのか?そんなことをふと考えてみました。結論はでませんでした。

私は三人兄弟の末っ子として生まれ、親は自営業で共働きでした。ですから、小学校まで親と一緒に遊んだという記憶はありません。このような経験から、自分に子どもが生まれると、「よし、いっぱい子どもと遊んだり出かけたりますぞ」と決意しました。しかし、どうやって子どもと遊んだらよいか、見当もつきませんでした。公園には行ってみたものの、何をどうしたらよいか分からず、あげくのはてにはすぐに帰ってきてしまう毎日だったような気がします。長男が生まれてから十年が経ちますが、未だに公園などは慣れないのが正直なところで、妻や子どもには申し訳なく思っています。

理想の子どもに育てるためには、自分にはどうしたらよいかなんて分りません。よく子どもは親の背中を見て育つと言いますが、ある日、私自身も子どもの成長する姿を見ながら一緒に成長していることに気がつきました。子どもの顔色を気にしながら接している親もいるようですが、親子には上下関係はなく、同じ人間として対等に接することが必要だと思います。駄目なものは駄目、よいものはよいなど、親も子どもも同じとけじめをつけて話をしていかなければいけないと考えています。

子どもを育てるばかりでなく、子どもから育てられながら、これからも、共有の時間を作っていったらと思っています。



相手の気持ちを考えた上で「じゃあどうすればいいかな。」と一緒に考えました。それをくり返しているうちに、自分でトラブルを解決できるようになってきました。

親は自分の子が転んだ時、痛い思いをしないように先回りをして石を取りのぞいてしまします。でも、その石はその子にとって成長する一つの材料になるかもしれません。つまり、転び、痛い思いをした時、親がしっかりとケアしてあげることが大切だと思います。



### 握手でつながる心の輪

水谷 中学校

校門の前で行われる生徒会主催のあいさつ運動。本校のあいさつ運動には、特徴があります。それは、あいさつをしながら握手をすることです。いじめ撲滅運動の一環として始めたこの活動は、あいさつするだけでなく、握手することで相手との距離を近づけよう、という生徒の意見をとり入れたものです。始めたころは恥ずかしがる生徒が

多く、本部役員もなかなか積極的に握手できずにいました。しかし、続けていくうちに握手する生徒も増え、それにつられてあいさつの声もだんだんと大きくなりました。さらには、あいさつするときに自然と笑顔も見られるようになり、握手しながらあいさつをする、自然と相手の顔を見ようになるので、すっかりコミュニケーション



を取れていることが実感できるのでしよう。握手を相手と心通わせる第一歩として、さらに心の輪を広げていってほしいと思います。

### 「気づき、考え、進んで活動する」

針ヶ谷小学校

針ヶ谷小学校で取り組んでいる図画工作科の研究も今年で三年目になりました。本年度は特に絵に表す活動を中心に授業研究を進めています。

子どもたちの発想もどんどん面白くなっています。「未来に行ける時計がいいな!」「アサガオがジェットコースターになつてんだよ!」「ザリガニの学校で勉強したら……」

自分の表現したいもの、活

動の面白さ、友だちのよさなどに気づく。伝えたいこと、材料の使い方、表し方などを考える。いろいろな方向からのぞきこんだり、じっと考えてみたり、思いっきりペンを走らせてみたり、「進んで活動」しています。

子どもたちが活動する様子を撮影していると、ひらめいた時の喜びの顔、うまくいかなくて困った顔、友だちの表現に感心する顔。どの子どもも



剣に自分の活動に向き合い、試行錯誤している姿を写真に収めることができます。その瞬間を大事にしています。

### つまずきは成長するチャンス

水谷東小学校 保護者 坂田 紀子

私には三人の子どもがいます。高校一年生の女の子、中学一年生の男の子、そして小学校三年生の男の子です。

私はこの子達に自分で考えて行動がとれるような人になつてもらいたいと思つています。それには、やはり子どもの中の体験や経験が必要なのではないかと思つています。

集団行動で学ぶことは、とても大切なことだと感じます。幼稚園に入るまでは、よく公

園と一緒に遊びに行きました。そこでトラブルがたくさんあり、貸してくれない、仲間にいれどなど……。どこにでもあるちっちゃなことです。でも、子どもにとっては大きなことなのです。泣きながら私に向かってくる我が子に、「もう面倒だな。」と思う心をぐっとおさえ、成長するチャンスと思つ、今の自分の気持ち、

### 暮らしの「作る」を伝えたい

難波田城資料館 駒木 敦子

難波田城資料館では富士見市が農村だったころの暮らしを楽しく学べるイベントを多数行っています。

昔の稲作を体験する「田んぼ体験隊」、手打ちうどんや五右衛門風呂を体験する「夏休み古民家宿泊体験」、お月見団子、ジュズ玉の腕輪などメニューは年間およそ八十種類!毎土・日・祝日に行つていますが、近年、思いを新たに始めたイベントがあります。「子ども裁縫教室」と「ナイフでけずろう」です。

資料館で子ども向けの「危ない!」体験を開催しよう!と考えたのです。とはいえ、ケガをさせないように指導者の人数が多勢必要です。「裁縫教室」では手芸サークルの女性二十人が先生で、今年で二回目です。小枝や鉛筆を削る「ナイフ」は職員と市民学芸員(ボランティア)が指導者です。こちらは残念ながら一回しか開催できていません……。でもあきらめず、作る大変さ・楽しさを伝えるため、がんばります!



# 人間尊重・私の主張

## 人権問題について

### 電車の中じい…



水谷中学校 一年 山本 千依

私はある一つの体験をしたことがあります。それはこういう体験です。

ある日、私は母と出かけるため、電車に乗りました。その日は私の行きたいところに行けるので、とても楽しみにしていました。そんな中、ある駅でドアが「ブシュー」と開くと、サングラスをかけ、白い杖を持った人が入ってきました。私はその時、「うわっ。」と驚きました。私は母に「目の見えない人だね。」とコソコソ言うと、母は頷くだけでした。まだ私は小学生だったので、見ていただけでした。席はほとんど満席でした。優先席を見ると、若い人が占領していて、譲る気配もなく、母は少しだけ怒っていたような気がしました。その目の不自由な人は、こつちに歩いてきました。とても怖くなりました。そしてその人は母の隣の上に座ったのです。私は驚きを隠すことができません。

「えっ。」と声を出してしまいました。母はすぐに立ち、その人に、「どうぞ、座ってください。」と言いました。すると、目の不自由な人は、「すみません。ごめんなさい。失礼します。」

# 人間尊重教育推進

## わたしたちのまちに育てよう人間尊重の心

### 一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのでです。

### 二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

### 三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されておりますので活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となつて子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

## 富士見市 いじめのない学校づくり子ども宣言

### 《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。  
○私たちは、いじめをしている人に「遊び半分でも相手を傷つけるようなことはしてはいけません。」と注意します。  
○私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。  
○私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。  
○私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願ひします。  
○私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とうったえ続けます。

### 《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。  
○私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。  
○私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。  
○私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよ。」と声をかけていきます。  
○私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、良くなかったら注意してください。」とお願ひします。  
○私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

## 家庭における人間尊重教育十か条

- 一人のいのちを大切にしよう
- 健康を大切にしよう
- おはよう、おやすみ、たがいま、おかえりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで感謝の心を育てよう
- 家族の仕事を手伝おう
- 家族の一員としての役割をはたしましょう
- 人の喜びを喜びとし、人の心の痛みを分かちあい助けあつていきましょう
- やさしさ、いたわりの心を大切にしよう
- おとしよりの方々に学びましょう
- どんな物も人の汗と力のできることを知り物を大切にしよう
- 正しくやさしいことばでつづかれた明るい家庭をつくりましょう
- 正しいことをつらぬく強い心で勇氣ある行動をとりましょう

## 人間尊重 わたしたちの合言葉

- あなたはね ひとりじゃないよ だいじょうぶ  
(諏訪小学校五年 土屋 栞)
- 「ありがとう」みんな笑顔に なる言葉  
(みずほ台小学校五年 阿部 玲風)
- 「大丈夫」その一言で すくわれる  
(富士見台中学校一年 稲見 玲)
- その言葉 相手の気持ちを 考えた？  
(西中学校一年 森田 愛菜)
- 笑顔はね 一人一人を つないでく  
(富士見台中学校一年 秋濱 佑哉)
- 広げよう いじめを止める 勇氣の輪  
(富士見台中学校一年 小阪 一輝)
- 入間郡市同和对策協議会  
入間地区人権教育推進協議会  
富士見市人権教育推進協議会  
応募作品より

と言ひ、席に座りました。母は何もなかったような顔をして、私の前に立ち、景色を眺めていました。目の不自由な人は、乗った駅から五つ目ぐらいの駅で降りました。私は母に、「びっくりした？」と聞くと、母は、「それは誰でもびっくりするよ。」と言ひました。びっくりしたのは、あんな凄まじいことができるなんて、とても尊敬しました。私もあの時、席を譲ろうとしましたが勇氣がでず、譲ることができなかったことに腹が立つたと同時に、自分の情けなさを感じました。そんな事を思っている時、目的地に着きました。とても楽しい時間のはずなのに、電車の出来事が頭に引つかかって、あまり楽しむことができませんでした。無理やり忘れようとする自分と、やっぱりあの時…と思っている自分がいました。時間が経つにつれて私の心は、「後悔」というものに包まれていきました。そして、帰りの電車。行きよりは半分以上、席が空いていました。私は母に、「あの時、私があの人に譲ってあげることができればよかった。」と言ひました。そうしたら母は、「分かればいいんだよ。でも、あの時は譲って欲しかった。」と言ひました。その時、私は目の不自由な人を差別していたという事に気づきました。あの時、「うわっ。」と声を出したのが、その証拠だと思ひます。今、思うことが三つあります。一つ目は、なぜあの時、譲ってあげなかったのかということ。今でも後悔の念でいっぱいになってし

まいます。二つ目は、何か気になることがあると、心に引つかかるということ。やはり他のことに気をとられると集中できないということ。今でも、たまにあの時、譲ってあげていたら、どうなっていたらと思う時があります。多分、よい気持ちなんだろうなと思ひます。三つ目は、差別は相手も自分もされたら嫌なことであることが自分でも実感できたこと。私があの時、目の不自由な人にしてしまったことは、絶対にしてはいけないことだと思ひます。私が今、すべきこと。それは、「人と人を差別しないこと」です。今、この時も差別され、傷ついている人はたくさんいます。私はその中にいる人たちを一人でも救えるような人になりたいと思ひています。それに、これから今までの自分の反省を生かして、前に言ってしまったこと、差別するようなことを言っている人には、「自分は良くて、相手はすごく嫌な思ひをしているんだよ」と教えてあげられたらいいなと思ひます。最後に、「人権」とは。それは、「人」だと思ひます。人それぞれが必ず持っているものであり、他人は、それをけなしたり、傷つけることは、絶対にしてはいけないものだと私は感じます。また、「差別」とは、自分もされたら嫌なことであり、相手もされたら嫌な思ひをすると思ひます。仲間はどれも差別に繋がることなので止めたいです。困っている人がいたら助け、差別している人がいたら注意し、正しく教えることが、この世界から差別を無くすことにつながります。また、一人一人の人権を守ることに繋がると、私は思ひています。

# 教育委員会だより

## ◆ 富士見市高等学校等 入学準備金利子補給のご案内

この制度は、高校、専修学校、専門学校、短期大学及び大学へ入学する方の保護者で、日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けた方に対し、市がその返済利子の一部又は全部を助成し、経済的負担の軽減を図るものです。

### ◇ 利子補給対象者

- (1) 市内在住の方
- (2) 市税(市県民税、固定資産税、軽自動車税)を滞納していない方
- (3) 日本政策金融公庫の教育一般貸付(入学資金)を受けている方

### ◇ 利子補給額

対象額は、融資額の内70万円以内の額を限度とします。利子補給額は、融資を受けた利率で、元利均等月賦償還、据置期間なしとして計算します。

【例】金利2.05%(平成27年11月13日現在)で70万円を借りた場合、約3万7千円助成されます。

### ◇ 利子補給期間

教育一般貸付の融資を受けた日の属する月の翌月から5年を限度とします。

### ◇ 申請手続き及び問合せ

教育委員会教育政策課まで(富士見市立中央図書館2階)  
電話 049-251-2711(内線612)

- ※教育一般貸付の融資に関する問合せは、日本政策金融公庫へ
  - ・ 日本政策金融公庫 川越支店  
〒350-1123  
川越市脇田本町14番1 日本生命ビル5階  
電話 049-246-4171(申込み相談)
  - ・ 国の教育ローンコールセンター  
電話 0570-008656(ナビダイヤル)

### 平成27年度埼玉県小中学校児童生徒美術展

#### 富士見市内展のご案内

☆日	時	1月20日(水)	9:00~17:00
		21日(木)	9:00~17:00
		22日(金)	9:00~17:00
		23日(土)	9:00~15:00
☆会	場	富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ	

#### 富士見市書き初め展のご案内

☆日	時	2月17日(水)	17:00~21:00
		18日(木)	9:00~21:00
		19日(金)	9:00~14:00
☆会	場	針ヶ谷コミュニティセンター 3階展示ギャラリー	



## 新天地で見つけた温かさ

つるせ台小学校教諭 渡邊 安寿佐



「先生は、友達がいなくてもさみしくありませんよ。だって、僕たちがいますもん。」  
他県より着任して間もないころ、クラスの子がそう声を

かけてくれた。新しい学校や生活になじめるか不安だった私を、とても温かく迎え入れてくれたのは五年二組の子ども達だった。  
「埼玉県のよさ」を題とする作文の宿題を出したところ、観光地、特産品、伝統文化、ショッピングモール、地域の人の温かさ、地元の公園、プール、富士山が見える……たくさん

「先生も埼玉を満喫してください。」  
「神奈川県のよさも教えてください。」と、本当に温かい言葉と気持ちであふれていた。  
子ども達と過ごし、七か月

が過ぎた。特に思い出深い授業は、家庭科での味覚実験だ。和食の魅力を知ってほしい。「旨味」を子ども達に味わってもらいたい。その一心で、かつお節、昆布、煮干しを教材として用意した。子ども達は、だしの特徴を探りながら、その旨味を味わっていた。仲間と顔を寄せ合い、意見を交換する姿。調理台を囲んでなべを覗き込む姿。私の思いに全力で応えて授業に取り組む子ども達の姿が嬉しかった。ときには、困った出来事もあるけれど、優しさあふれる明るい五年二組が大好きだ。みんなも、もうすぐ六年生。来年度も、思いやりあふれる学校をつくってほしい。

## 編集日記

夏には、中学生が殺害される事件、十一月には小学生が大麻を吸う事件、と子どもたちを巡る事件に心痛めている方も多いことだろう。子どもたちの健やかな成長のためには、学校・家庭・地域の連携は欠かせない。

熊谷市にある幡羅高等学校が明治三十一年四月に保護者向けに配布した「家庭心得」には、次のように述べられている。  
拜啓 諺にも、「教育の道は家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、社会の教えで実がなる」とありますので、学校と家庭とは、常に力を合わせて幼い子を社会の悪い風習に染まらないようにしたいものです。  
明治時代からは、環境は大きく変化し、子どもたちを取り巻く課題は多様だ。しかし学校・家庭・地域が共に手を携えて子どもたちを育てていくことは、教育における不易の部分である。富士見市では、「八・三・五運動」等、PTA連合会が中心となり、子どもたちの見守り活動を推進していただいている。また、学校応援団を始め、保護者・地域の方々に、安心・安全の確保、学習支援、環境整備等、多くのご支援をいただいている。さらに、互いの役割を明確にし、同じ方向で教育を推進したい。

(森田)